



# 年間報告2021

April.2021-March.2022





# アーバンデザインセンターみその[UDCMi]の概要

## 美園地区の概況

さいたま市の東南部、東京都心25km圏の郊外に位置する「美園地区」は、2001年3月開業の埼玉高速鉄道線「浦和美園駅」を中心に、大規模な都市開発が進行中のエリアである。市上位計画に位置づけられたく市の副都心)の1つとして、2002 FIFA W杯に合わせて2001年10月に開設した埼玉スタジアム2002公園(以下、埼スタ)も囲みながら、2000年度以降、総面積約320ha、計画人口約32,000人の土地区画整理事業(区域愛称:みそのウイングシティ。以下、MWC)を核に、新たな都市拠点づくりが進む。

2006年4月の先行整備街区の街開き以降、基盤整備の進捗に応じて住宅・店舗等の建設や、小中学校・公園等の公共施設整備も徐々に進展。2017年2月には、MWCの大半を占めるUR都市機構施行区域(浦和東部第二地区・岩槻南部新和西部地区)の換地処分も済み、本地区のまちづくりは面的な基盤整備段階から、敷地・事業単位での計画・運営段階へと漸次移行してきている。

## UDCMi開設の背景・経緯

さいたま市は「市民・企業から選ばれる都市」を標榜しており、本地区の目下の課題も(副都心)に相応しい新市街地として夜間人口・昼間人口・交流人口の増加を図る事だが、折しも、市の取り組んできた地域活性化総合特区「次世代自動車・スマートエネルギー特区」(2012~2019年度)に係るモデ

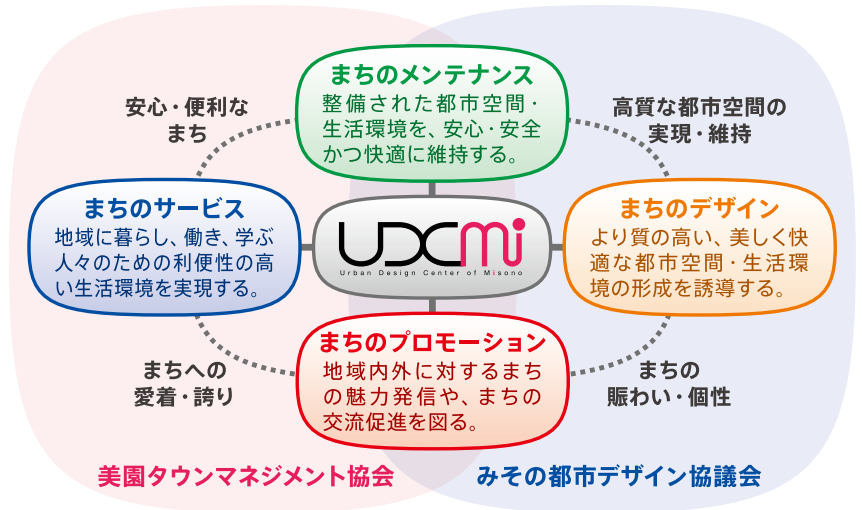
ル事業がMWC内で企画される事となった。その普及促進策の要請も契機に、新たな都市基盤上でのハード・ソフト一体となったまちづくりを加速度的に推進すべく、市の重点施策をとりまとめた『しあわせ倍増プラン2013』(2013年12月策定)でセンター設置が位置づけられ、準備期間を経て2015年10月にまちづくり情報発信・活動連携拠点アーバンデザインセンターみその(略称:UDCMi)が開設された。

## UDCMiを起点とした活動連携

UDCMi開設に前後して、地域サービスや地域プロモーション等、主にソフト分野の企画・実証・事業化に取り組む美園タウンマネジメント協会(以下、TM協会)が2015年8月

に、土地利用・街並み・交通環境などハード面の検討・調整を行うみその都市デザイン協議会(以下、UD協議会)が2016年3月に、それぞれ(公民+学)が参画して設立された。

両コンソーシアム組織がUDCMiを拠点に活動を進めるなか、UDCMiの管理・運営を担う一般社団法人美園タウンマネジメント(以下、TM法人)がそれぞれに事務局として関わり、連携コーディネートを実践している。まちの「デザイン」・「メンテナンス」・「サービス」・「プロモーション」の各分野に亘るまちづくりプロジェクトの企画立案・試行検証・実装化の推進を通じて、地区まちづくりに係るステークホルダー間の連携・役割分担に基づく持続可能な地域マネジメントモデルの構築を目指している。



UDCMiを起点とした活動連携



浦和美園駅周辺の概況(撮影:2021年4月)



## 美園タウンマネジメント協会



スマートホーム・コミュニティ先導モデル街区整備(第1期)



パブリックスペースを活用したマルシェ事業「晴空みそのいち」

新たな地域価値を創造し、住まう人々や企業に選ばれるまちとなっていくために、業界の枠を超えた「公民+学」のオープンかつフラットな連携を基に、新たな地域サービスやプロモーション事業等を創出・展開し、その取り組みを通じて地域住民・地権者・団体・企業等との協力・連携を深めながら次世代の地域マネジメントモデルの構築を図るべく、2015年8月に設立された。

本地区の有する地域資源や、広域交通利便性に恵まれた立地ポテンシャルを活かしながら、優れた自然環境と共生し、多様な創造的交流にあふれ、安心・安全で健康・快適な新たな時代のライフスタイルを体現した、市の目指す理想都市の縮図「スマートシティさいたまモデル」の構築・発信を目指し、最先端の知見・技術と地域コミュニティの活力を生かした各種プロジェクト・施策の企画・実証・実装化に取り組んでいる。

### 会員一覧

分類	組織・団体名
公	さいたま市, (公財)さいたま市文化振興事業団
民	(株)アキュラホーム, (株)アズビル金門(株), (株)AsMama, イオンクレジットサービス(株), イオンディライト(株), イオンバイク(株), イオンペット(株), イオンリテール(株), (株)エックス都市研究所, (株)FMシステム, コーユーレンティア(株), (株)ココロマチ, 埼玉県住まいづくり協議会, (株)埼玉りそな銀行, (同)サイバー工房, (株)ジェイコム埼玉・東日本, 積水ハウス(株), ソフトバンク(株), 損害保険ジャパン(株), (株)高砂建設, (株)タニタ, (株)中央住宅, デジタルグリッド(株), 東京ガス(株), 東京電力パワーグリッド(株), 西松建設(株), 日本アイ・ピー・エム(株), (株)日本総合研究所, パナソニック(株)ライフソリューションズ社, 三菱HCキャピタル(株), (株)BTM, フェリカポケットマーケティング(株), (株)ミサワホーム総合研究所, (一社)美園タウンマネジメント, 三菱電機(株)
学	慶應義塾大学, 工学院大学, 芝浦工業大学, 東京電機大学

(2022年3月時点)

## みその都市デザイン協議会



『みその都市デザイン方針』の策定・進捗管理



綾瀬川遊歩道の高質化整備・管理活用の推進

(整備前)

本地区では、大規模な新市街地形成を行いながら「スポーツ、健康、環境・エネルギー」をテーマとした都市拠点づくりが進められているが、これまでの都市開発テーマを継承しながらも、これからの時代に本地区が目指すべき都市・環境デザインの将来目標や実践方針・戦略を関係者間で策定・共有し、その将来都市像の実現に向けた調査研究・企画立案・協議調整を行うために2016年3月に設立された。

住宅・店舗等の建設や、公園・学校等の整備も徐々に進展し、本地区のまちづくりが面的な基盤整備段階から敷地・事業単位での計画・運営段階に漸次移行する中で、地域の空間資源を活かしながら新たな都市基盤上に形成する空間の質を高め、生活環境を維持・向上させていく事が一層重要な課題となっている。

### 会員一覧

分類	組織・団体名
公	地方自治体 さいたま市, 埼玉県 公益法人等 埼玉スタジアム2002公園管理事務所
民	土地区画整理事業関係者 浦和東部第一特定土地区画整理事業審議会, 大門下野田特定土地区画整理事業審議会, 浦和東部第二特定土地区画整理事業関係者, 岩槻南部新和西特定土地区画整理事業関係者, 大門上・下野田特定土地区画整理組合 自治会関係者 美園地区自治会連合会, 新和地区自治会連合会 立地企業 イオンリテール(株), 浦和レッドダイヤモンズ(株) 交通事業者 埼玉高速鉄道(株), 国際興業(株) まちづくり法人 (一社)美園タウンマネジメント
学	埼玉大学, 芝浦工業大学

サポーター会員 (株)風憩セコロ

(2022年3月時点)

# 2021年度の主要トピック

## 都市開発区域の人口密度

市の〈副都心〉の1つに位置づけられる本地区では、大規模な都市開発を行いながら、〈スポーツ、健康、環境・エネルギー〉をテーマとした都市拠点づくりが進められてきた。浦和美園駅開業や埼玉スタジアム開設、MWCの土地区画整理事業施行開始から20年余りが経過する中で、道路整備や宅地造成の進捗に追従して住宅供給・店舗建設等も日々進展し、近年は子育て世代を中心に居住人口が急増している。

MWC区域の土地区画整理事業における計画人口は100人/haに設定されているが、2022年1月時点のMWC区域内の人口密度は50人/haを超えており、人口の張り付き状況としては、計画人口の半分に到達したところである。

## スマートホーム・コミュニティモデル街区第3期竣工

市の取り組む地域活性化総合特区「次世代自動車・スマートエネルギー特区」(2012～2019年度)に係る重点施策の1つ「スマートホーム・コミュニティ普及」の一環として、浦和東部第一地区内の集約保留地を活用したモデル街区整備が進められてきたが、第1期街区33戸(2017年3月竣工)、第2期街区45戸(2019年7月竣工)に引き続いて、今年度2月に第3期街区51戸が竣工した。

第3期街区においては、第1期・第2期街区に引き続き脱炭素化・レジリエンシー向上を目指した各住戸仕様・街区仕様を採用しつつ、当該街区におけるエネルギーマネジメントシステムの整備が進められ、街区再エネ自給率60%以上(試算上)を達成するものとなっている。

本事業により構築した街区モデルについて、低炭素型住宅開発モデルとして、横展開方策を今後検討・推進していく予定である。

## 大門上池調節池広場の利用促進活動開始

地域のスポーツ・レクリエーションの場や、埼玉スタジアムと連携したイベント空間としての河川空間活用に向け整備が進められてきた「大門上池調節池広場」について、今年度4月1日から一般供用開始となった。

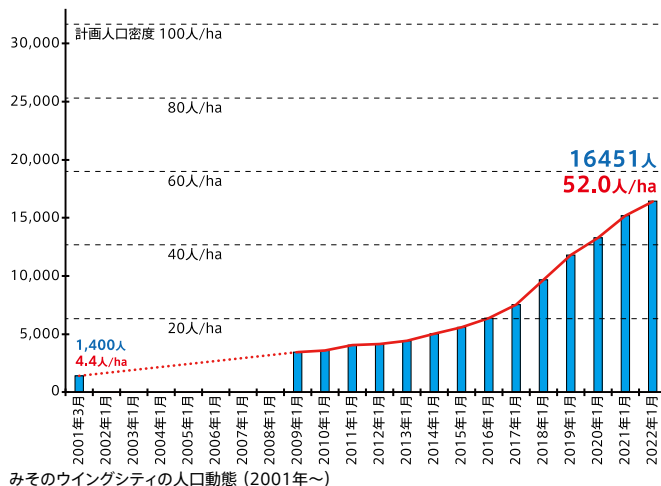
コロナ禍も踏まえ、供用開始した4月以降、同広場の専用(予約)利用用途を自治会等の地域活動や市内スポーツ団体等のスポーツ活動に限定していたが、11月以降は用途限定を解除し、本運用体制(集客イベント等による収益を維持管理等へ還元する公民連携スキーム)を見極めていくため、市・TM法人が連携した管理・運営検証に着手したところ。管理・運営検証は次年度も継続する予定である。

## 地域プロモーションに向けアスリートとコラボ

新型コロナ危機も契機に大都市圏郊外の居住環境が再着目される中、本地区の居住人口や交流人口の増加を一層図り、多様な地域プレイヤーの参画・連携・協働を促進させ、世界に誇れる〈スタジアムタウン〉づくりを更に加速的に推進すべく、TM協会では本地区のプロモーション映像『美園スタイル』を作成した。

本プロモーション映像は、本地区の魅力や『美園スタジアムタウンビジョン2050(以下、STビジョン)』に掲げる将来イメージ等を生き生きと発信すべく、本市にゆかりのあるスポーツチーム・アスリートとコラボし、発展を続ける本地区の〈若くエネルギーに満ちた様〉をアスリートのプレーイメージに掛け合わせ、埼玉スタジアムをはじめとした公園緑地、綾瀬川・見沼田んぼ等の地域資源や、本地区にて進む各種プロジェクト・活動等を紹介する内容となっている。

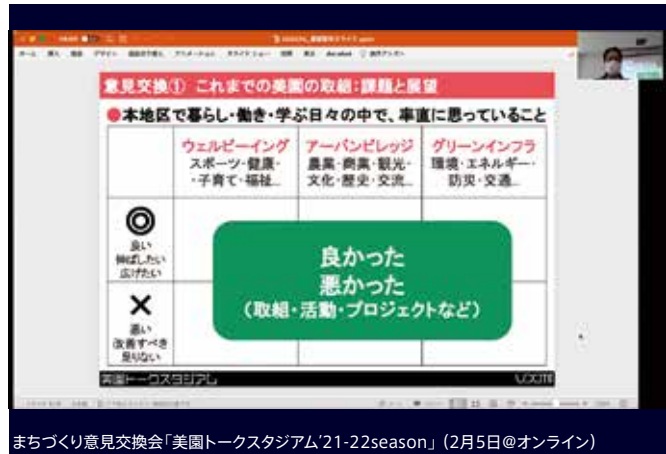
3月30日に市公式YouTubeチャンネルでの配信開始、特設Webサイトを公開したが、今後、本プロモーション映像を活用しながら、本地区の更なる認知度向上・地域ブランド力向上に向けたプロモーション活動の推進を図っていく。



美園地区プロモーション映像「美園スタイル」特設Webサイト <https://misono-style.jp>



# まちのビジョン (地域ガバナンス/マネジメント体制づくりに係る主な取組)



本地区の持続的発展およびサステナブルな地域社会の構築に向けて、地区将来像の共有等を通じた地区まちづくりに係る関係者間の連携・協働の促進や、自律(自立)的な地域ガバナンス/マネジメント体制の構築に係る調査・研究に取り組んでいる。

## 未来ビジョンの策定・公表

【UD協議会, TM協会】

昨年度に素案作成を行った『美園スタジアムタウンビジョン2050』(以下、STビジョン)について、記述修正等の調整を進め、1月に策定、3月に公表を行った。ビジョン公表が当初想定から遅れた事もあり、その普及活動は次年度以降に本格着手する予定である。

一方で、例年開催しているまちづくり意見交換会「美園トークスタジアム」について、今年度は、会場対面方式とオンライン方式を併用し、また、明治大学松浦研究室<sup>\*</sup>との連携のもと2月5日に開催した。意見交換会当日は、前述STビジョン内の将来像キーワード「ウェルビーイング」・「アーバンビレッジ」・「グリーンインフラ」も引用しながら、各観点から課題等を意見出した他、持続可能性の観点からも本地区の現状について意見交換を実施した。

次年度実施するSTビジョン普及活動でも、同研究室との企画等連携を検討中である。

<sup>\*</sup>明治大学松浦研究室は本地区を対象に、持続可能なまちづくりに関して「トランジション・マネジメント」の研究(今年度より3ヵ年予定)に取り組んでおり、ヒアリング調査や住民意識調査モニター募集等に関する側方支援を実施した。

## 地域ガバナンス/マネジメント体制研究

【TM協会, UD協議会】

エリマネ研究会(後述)や日本都市計画学会等のスマートシティ研究への参画を通じたエリマネ推進方策研究・情報収集を行いつつ、並行して本地区における各先行プロジェクトの自走定常化段階を見越した運営コスト評価やスキーム精査を進めている。

これまで、各事業・活動等の取組推進に関する、持続可能性等の合理性(科学性)と地域社会における納得性(参加性)との双方整合した評価手法の確立を目指してきたが、収益・費用試算は順次進んできていたものの、各事業の地区スケールでの〈ソーシャル・インパクト〉(まちへの波及効果等)の適切な評価手法の導出には至れていなかった。近年、EBPM(Evidence Based Policy Making)に係る「ロジックモデル」を活用した評価指標設定が徐々に普及している事も背景に、次年度以降、本地区における各種事業評価において同「ロジックモデル」を

試験的に取り入れていく事を検討中である。

## UDC連携の推進

【TM協会, UD協議会】

国内外の先進事例等も参考にしながら本地区の新たな地域マネジメントモデルを検討していく為に、近年全国各地に開設が相次ぐ「アーバンデザインセンター: Urban Design Center(UDC)」との連携を推進し、各種まちづくり事業や地域運営体制構築等に関する課題・ノウハウ等の情報交流の促進を図っている。

今年度は、いずれもオンラインでの企画実施となっているが、例年開催される「全国UDC会議」への参加や、(一社)UDCイニシアチブ主催のまちづくり人材育成企画に協力(告知協力)した他、過年度より開催されている「エリマネ研究会」に参加し、UDCO等とエリマネマネジメントに関する取組情報交換(近況報告および各回テーマ議論)を定期的に開催してきている。

今後は、各地の取組全般に関する交流・発信と並行して、スマートシティ分野やパブリックスペース利活用分野など、特定テーマに関する交流・発信や企画連携についても、検討していきたい。

## まちのデザイン(デザインマネジメントに係る主な取組)



スマートホーム・コミュニティモデル街区(第3期):コモンスペース



綾瀬川遊歩道:ロープ柵整備済み箇所(美園3丁目)



『美園スタジアムタウン:街並みデザインガイド』の運用



まちなかベンチプロジェクト「みそのREDベンチ」社会実験(@東口駅前通り線:歩道)

より質の高い、美しく快適な都市空間・居住環境の形成に向け、2017年4月公表の『みその都市デザイン方針(以下、UD方針)』に基づいて、公共空間等の高質化整備・利活用や街並みデザイン誘導・土地活用促進、域内モビリティ向上等の方策検討・実践に取り組んでいる。

### スマートホーム・モデル街区整備

#### 【TM協会:住宅性能向上分科会】

市の取り組み地域活性化総合特区「次世代自動車・スマートエネルギー特区」(2012～2019年度)に係る重点施策の1つ:スマートホーム・コミュニティ普及の一環として、浦和東部第一地区内の集約保留地を活用しモデル街区整備を進めている。

第1期(33戸)、第2期(45戸)に引き続き第3期(51戸)の整備が進められ、2月に全戸竣工した。第1期・第2期と同様に、各戸には高気密・高断熱等の建築仕様を採用し、各街区には各区割りから地役権を相互設定・共用する「コモンスペース」を創出し電気・通信配線地中化が行われ、また、第3期では街区全体のエネルギーマネジメント設備を設けるチャージエリアが整備された(後述)。

本事業により構築した街区モデルについて、低炭素型住宅開発モデルとして、横展開方策を今後検討・推進していく予定である。

### 街並みデザインガイドの運用

#### 【UD協議会:デザイン調整分科会】

本地区にてこれまで形成されてきた街並み・住環境を維持・向上させ、より一層魅力ある市街地環境へと誘導を図ることを目的に、「ウォークability(快適な歩行環境)」、「ホスピタリティ(豊かな居心地)」、「都市のグリーン化(エコな暮らし)」の3つの視点を軸とした街並みガイドライン『美園スタジアムタウン:街並みデザインガイド』の運用を2020年4月より実施している。

UD協議会事務局を窓口にて、建築行為等を行う相談者に対して同ガイドラインに基づく助言を実施しているが、同ガイドラインに関する問合せは多数ある中、書面提出による正式な相談件数は今年度内は8件であった。法令に基づかない「任意手続き」となっている事もあり、各事業者等の自主努力に委ねている部分も大きく、機運の高まりに応じては、法令の活用も含め本ガイドラインの実効性担保に向けた方策検討も、順次進めていく必要がある。

### 河川空間の高質化整備・管理

#### 【さいたま市美園地区河川利用調整協議会】(TM協会・UD協議会 各関係者が参画)

快適な都市環境づくりに向け「オープン

スペース」としての河川空間の有効活用を推進すべく、市町村・地域の取組と連携した水辺空間整備・拡充を県が行う埼玉県事業「川の国埼玉はつらつプロジェクト」を活用し、2018年3月にUD協議会にて策定・公表した基本計画『美園スタジアムタウン:河川空間活用計画』を基に、「綾瀬川遊歩道」及び「大門上池調節池広場」(後述)の詳細設計・整備および管理・活用体制づくりが進められてきた。

綾瀬川遊歩道については、2020年度に舗装整備(県施工)が全延長約3.5km完了し、転落注意喚起のロープ柵整備(市施工)が同年度より順次行われている。そうした整備進捗に追従して2018年度以降、沿川連携による維持管理体制構築に向けて近隣自治会・民間企業等と協議を進めつつ、機運醸成を図る交流・清掃企画を随時開催してきた。新型コロナ危機以降は、綾瀬川サポーターズ(後述)による既存企画の維持継続に留まっているが、コロナ禍における活動ノウハウも徐々に蓄積され、沿川連携体制構築の「再始動」が今後の課題となっている。

### まちなかベンチプロジェクト

#### 【UD協議会:公共空間等利活用分科会】

昨今のコロナ禍において、感染リスクを避けるため居住地近辺で過ごす時間が長く

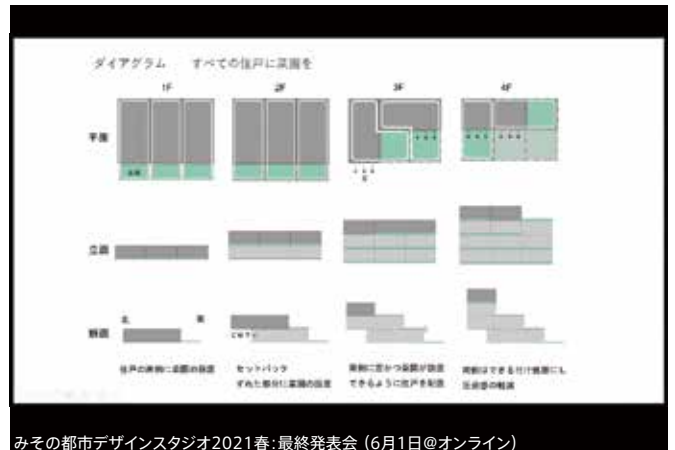




「美園マチなかロビー2021」を介した公園での飲食販売  
(9月12日@浦和美園4丁目公園)



「美園マチなかロビー2021」を介した公園での飲食販売  
(7月24日@美園台公園)



みその都市デザインスタジオ2021春:最終発表会 (6月1日@オンライン)



みその都市デザインスタジオ2021冬:最終発表会 (1月26日@オンライン)

なったことや、いわゆる「3密」を回避する点から、〈身近な屋外空間〉としての道路・公園等は、人々が過ごす日常空間としての重要性が一層増しており、そうした空間の確保や質の向上が重要なまちづくり課題となっている。

こうした背景も踏まえながら、まちなかの歩行支援施設の充実による本地区内のウォーカビリティ向上を一層推進すべく、まちなかベンチプロジェクト「みそのREDベンチ」社会実験を7月より実施している。浦和美園駅東口駅前通り線の歩道にベンチ1基を試験設置しながら、公共空間と民間敷地、施設管理者と利用者、民間事業者と地域住民など多様な主体の連携に基づくまちなかベンチ数増に向けた普及方策の検討を進めている。次年度以降は、クラウドファンディング活用や地域ポイント事業(後述)連携など、具体策の試行・検証を進めていく予定である。

## コロナ禍における公共空間利活用実験

【UD協議会:公共空間等利活用分科会】

Withコロナの都市活動持続、およびPostコロナの屋外スペースの新たな使い方・ニーズ把握を目的に、屋外空間で事業・活動を継続したい事業者・団体等を募集し、ワンストップ的に既存オープンスペースとをつなぎ一時利用を促進する公共空間等利活用実

験「美園マチなかロビー」について、昨年度より実施している。

UD協議会主催の期間限定実験として、公園は期間まとめでの「設置許可」を、道路は都度「道路占用・使用許可」を受ける形で、浦和美園駅東口駅前通り線・浦和美園4丁目公園・美園台公園を対象に、出店者より出店料を徴収しない〈無償実験〉として実施してきたが、〈実験〉から〈日常化〉への移行に向け、出店料を徴収する〈有償実験〉への移行について今年度協議を進め、2月出店分より有償化を行い、運営収支検証に着手した。

なお、まん延防止等重点措置を踏まえたさいたま市管理公園でのキッチンカー等出店停止指示により、4月28日より6月20日まで公園でのキッチンカー等出店は中止していたが、その他の期間内においては今年度、飲食51件(うち有償6件)、交流ワークショップ等10件(うち有償1件)の出店が行われており、取組が浸透・定着する様子も窺われ、2022年度も〈有償実験〉を通じた検証を継続予定である。

## みその都市デザインスタジオ

【UD協議会】

本地区を研究対象とした学生まちづくり提案演習企画「みその都市デザインスタジオ」を2015年度より継続開催している。人材

育成はもとより、市民・企業・大学・行政等の意見交換促進を通じて、本地区の新たなまちづくりへの機運醸成を図るとともに、地域課題の解決に向けて大学の知見・アイデアを活かしていくことを狙いとしている。

今年度は、前年度3月から6月にかけて芝浦工業大学の学生10名が、「『(仮称)美園スタジアムタウンビジョン2050』の理念を実現する保留地活用計画」のテーマ設定のもと、STビジョンに挙げられたキーワードを掘り下げつつ、浦和東部第一地区の集約保留地の利用に関する基本計画や施設整備計画の調査・研究に取り組んだ。同研究成果も踏まえながら、浦和東部第一地区の保留地処分計画検討が進められている。

また、10月から1月にかけて埼玉大学の学生17名が「美園の特性を生かして《ウェルビーイング》を実現する都市デザイン」のテーマ設定のもと、地区概況を踏まえたまちづくり施策提案の調査・研究に取り組んだが、この成果も活かしながら次年度以降、エリア交通戦略検討を進めていく予定である。

# まちのメンテナンス (メンテナンスマネジメントに係る主な取組)

家づくりの考え方の基本

夏 春 秋 冬

快適範囲

外気温

みその暮らしの講座 2021

家庭向け省エネセミナー  
「ポストコロナ時代における家庭の暮らし快適化計画」(12月11日@オンライン)



既実施・レジリエンスを担保する  
分散型エネルギーマネジメントシステム **エネプラザ** eneplaza

さいたま市浦和東園において、脱炭素・レジリエンスを担保した  
再生可能エネルギーの地産地消を推進する脱炭素循環型コミュニティを構築!

**発電例**

- ※各戸の屋根上に太陽光パネルを設置し、チャージエリアの中心にマイクログリッドを設置し、蓄電池、EVにて太陽光で発電した電気を充電
- ※系統停電時にもマイクログリッドが自立運転することで、電力供給の継続が可能

**概要例**

- ※太陽光発電の自給するタイミングで蓄え上げる自律制御を可能
- ※太陽光発電の季節に応じて蓄電が変動する分散型マイクログリッドを導入、かつ各戸のデバイスで蓄電を指示させることで、再生可能エネルギーの活用を促進

**ENERGY FLOW**

日中、太陽光で発電した電気をチャージエリアの中心に設置したDC-AC変換器にて、蓄電池へ充電を行う。夜間電力は蓄電池から取り出し、蓄電池が満充電に達しない限り、蓄電池から供給を行う。蓄電池が満充電に達した場合は、太陽光発電による発電量を削減し、マイクログリッドが自立運転することで、電力供給の継続が可能。

**Demand Side Flexibility**

電気の需要

日中の発電不足を補う電力を蓄電池から取り出す

更新時の電力消費プラン

スマートホーム・コミュニティモデル街区(第3期):チャージエリアのシステム概要

街区内の再エネ自給率は、60%以上を達成する見込み!  
(平定分に相当する証書を組み合わせることで、街区内の電力消費総量のうち100%を実現する)

Loop

整備された都市環境・施設等を安心・安全かつ快適に維持・管理していくため、エネルギーセキュリティの確保や、まちのファシリティ・マネジメントの連携・効率化に向けた方策検討・実践に取り組んでいる。

## 地産地消型再エネマネジメント体制構築

【TM協会:再エネ地産地消分科会】

再生可能エネルギーの活用促進やエネルギー効率化等を推進していく上で、各取組の分担・連携の促進を図る『(仮称)美園エネマ戦略』の検討・作成を行い、そのマネジメント体制の構築を目指している。

今年度は、戦略検討を進める中で、過年度に実施した電力需要想定を推計精査として、商業・業務施設の推計を行い、電力由来CO<sub>2</sub>排出量ゼロの導入目標を再整理した。また、市民講座(後述)参加者への省エネ意識調査を行い、再エネ・省エネ設備の設置状況・導入意向等の把握を通じて今後の施策課題検討を実施した。

また、本地区における脱炭素化の機運を高める普及啓発活動として、住宅の省エネ対策、家電の使い方等をテーマとした住民向け省エネセミナーを12月11日にオンライン開催した。講演内容に地区内事例等を盛り込む事で、「身近な内容として参考になった」と参加者の好評価を得ており、今後も適宜セ

ミナー等の開催を検討していく。

## 再エネ電源検討

【TM協会:再エネ地産地消分科会】

前項のエネマ戦略検討とも連携しながら、地域住民のライフスタイルや地区特性等も考慮しながら建物用途・敷地条件等に応じた再エネ導入を促進していくために、本地区内における再エネ導入ポテンシャル(発電種類・設置場所)を見極め、エネルギー別・設置場所等に応じた事業企画の立案や、事業スキーム・事業性等も踏まえた事業計画の検討・作成に取り組んでいる。

過年度に事業性・発電効率等の観点から「太陽光発電」が最有効と選定しているが、今年度、住宅屋根を活用した共同購買事業についてPPA事業者と協議を進め、国庫補助事業等を活用した事業スキーム・事業フロー案を整理した。来年度、実施可能性を検討・調整していく予定である。

一方で、卒FIT太陽光余剰電力を活用した電力供給による脱炭素化施策についての検討として、再エネ導入の訴求効果の観点から埼玉公園等の公共施設を供給対象として卒FIT電力を地域内で有効活用するスキームの検討を進めた。

また、他の再エネ電源設備の導入に向けては、環境省「REPOS」を用いた再エネポテ

ンシャル量を踏まえつつ、本地区周辺の市街化調整区域内でのソーラーシェアリング事業について、事業組成に向けた検討フロー整理を進めた。

## スマートホーム街区のエネルギーシステム整備

【TM協会:住宅性能向上分科会】

スマートホームモデル街区の第3期街区整備(前述)を進める中で、当該街区におけるエネルギーマネジメントシステムの整備が進められた。

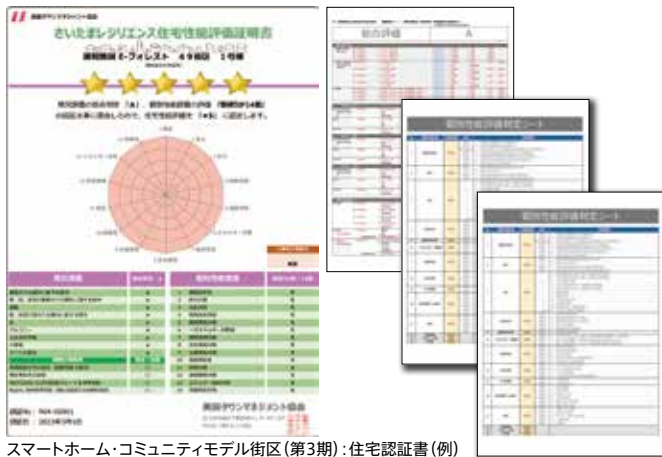
街区全戸に設置するPVパネル、および街区内に設けた「チャージエリア」に備える蓄電池・EV設備等を用いて、シェアリング用EVでの脱炭素型交通システムの利用促進を図るとともに、同EV停車時には車載蓄電池をエネルギーリソースとしてマイクログリッドのPV余剰を充放電することで、平時の自家消費率を最大化させ、災害時等においては電力系統が停電しても街区内の電力供給を継続し、かつ、シェアリング用EVを用いた周辺への電力供給も可能とするエネルギーシステムを構築した。

## さいたまレジリエンス住宅認証制度

【TM協会:住宅性能向上分科会】

多世代が共生・循環し、持続可能で活力ある地域づくりの実現に向け良質な住宅スト





スマートホーム・コミュニティモデル街区(第3期):住宅認証書(例)



大門上池調節池広場での市内スポーツ団体によるスポーツ活動利用風景(例)



住宅履歴管理システムの各動作検証作業



花火翌日清掃イベント「会場周辺おそうじ志隊」(11月4日@大門上池調節池広場)

ク形成を促進していくため、脱炭素化やレジリエンス向上、健康的な暮らしの実現等の観点を中心に、住宅性能および資産価値の適正評価を行う「住宅認証制度」の構築・運用検証・普及の推進に取り組んでいる。

2018年度に「さいたまレジリエンス住宅認証制度」として制度構築を行い、運用実証を行ってきたが、今年度は仕組みの自走化に向け、過年度実証を通じて明らかになった諸課題への対応をしつつ、同認証制度の事業性検証・評価を実施した。制度運営全体に係るコスト構造を見直し、運営コスト評価とスキーム精査を経た結果、事業収入に対する安定性が脆弱で、発生する先行投資への対応も解決が見出せておらず、収支自走が見込めないため、今年度内移行を予定していた同認証制度本運用は取り止めと判断している。

制度運用を今後事業化ベースに乗せていく上では、提供サービスレベルに対するユーザー対価の受容や、また、本事業への投資や収支が見込めるよう、制度運用から派生する別事業等からの資金還元等の仕組みが必要となるが、対応策の検討を継続していく。

### 住宅履歴管理システム開発・実証

【TM協会:住宅性能向上分科会】

前項の認証制度とも連携しながら、住宅

等建物の状態を常に把握し、現状および将来の資産価値の適正な評価を行いながら、適切で効率のよいメンテナンス・改修を促し資産価値の維持・向上を支援する一貫システムの開発・実証に取り組んでいる。

今年度は、前項の検証・評価と並行して、過年度実証を踏まえてのシステム検証を引き続き実施したが、前項のコスト等検証結果を受け、今年度内に移行予定していたシステム本稼働は取り止めと判断した。

今後、前項の制度運用と並行して、本システムのあり方についても検討を進めていく。

### 大門上池調節池広場の管理・運営

【さいたま市美園地区河川利用調整協議会】  
【TM協会・UD協議会 各関係者が参画】

地域のスポーツ・レクリエーションの場や、埼玉と連携したイベント空間としての利活用が期待される「大門上池調節池」について、前述の『河川空間活用計画』を基に底面広場の詳細計画・整備が進められ、2020年10月に底面広場整備(市施工)、2021年3月に護岸・周遊路等整備(県施工)がそれぞれ完了し、今年度4月1日から一般供用開始となった。

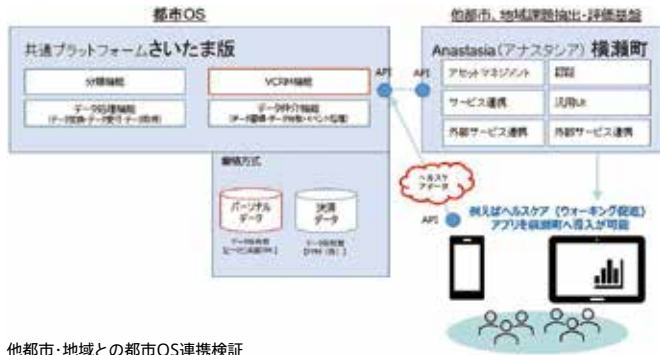
同広場の管理・運営については、河川敷地占用許可準則に則した埼玉県制度「水辺空間とことん活用プロジェクト」の枠組みのみ

と、2020年4月に都市・地域再生等利用区域に県が指定し、同制度に基づく本運用体制(集客イベント等による収益を維持管理やまちづくりへ還元する公民連携スキーム)を見極めていくため、今年度は市・TM法人が連携した管理・運営検証を行う事となった。

コロナ禍もあり、当初は専用(予約)利用用途を自治会等の地域活動や市内スポーツ団体等のスポーツ活動に限定し、土日祝日を中心にスポーツ活動での利用が活発化している。その後11月以降は、用途限定を解除し、集客イベント等の誘致活動を開始した。今年度内におけるイベント等での利用は6件(うち5件は利用ルールに基づいて利用料免除対象)であったが、大規模な集客イベント等の実施には相応の準備・調整期間を要することから、イベント等での広場利用は次年度以降に本格稼働となる見込みで、管理・運営検証は次年度も継続する予定である。

なお、本広場の維持管理活動への地域参画促進に向けては、昨年度同様、花火大会翌日の清掃イベント(11月4日)を開催したり、綾瀬川遊歩道沿い清掃イベント「綾瀬川クリーンウォークin美園」の対象範囲に本広場を含める等、地域参加の機会を随時企画・実施してきている。次年度以降もこうした企画を随時検討していく予定である。

# まちのサービス(サービスマネジメントに係る主な取組)



他都市・地域との都市OS連携検証



さいたま市地域ポイント「たまぼんポイント」におけるスマートフォンアプリ導入



スロージョギング健康教室の座学 (10月10日@美園コミュニティセンター)



初めてのスマホ教室 (9月24日@美園公民館)

地域住民や来街者が快適・便利で健康的に過ごせる生活環境の実現に向けて、IoT・AI等の先端ICT技術を活用した地域サービスの事業化に取り組んでいる。また、そうしたサービス等に係る「まちのデータ」を収集・管理・活用するための地域情報基盤システムの開発・実証も進めている。

## パーソナルデータ活用実証事業

【TM協会: 共通プラットフォーム分科会】

システムセキュリティや個人情報保護等に配慮しながら、個人データを収集・管理・活用する情報基盤システム(都市OS)「共通プラットフォームさいたま版(以下、共通PF)」を構築・運用しながら、同基盤システムを用いた個人データ活用サービスのユースケースを重ね、データ組合せによる新たな情報価値創造に基づく、持続可能なデータ活用事業スキームづくりを目指している。

今年度は、総務省「データ連携促進型スマートシティ推進事業」を活用し、過年度に引き続き個人データ活用ユースケース実証としては、スロージョギング指導、ウェアラブルデバイス、測定イベント、健診等を組み合わせ、収集データを基に専門医から遠隔指導を受ける「スロージョギング×健康モニタリング」プログラムを10月から2月にかけて計3期実施した。また、基盤システムの

共同運営も見据えた他都市連携検証としては、横瀬町での取組との連携を行い、共通PFが有するVCRM機能(データ活用事業者、データ提供者の双方からデータ利用権限管理を行える機能)の機能融通を検証している。

共通PFの実装運営体制についても方針検討を進めており、次年度以降に具体的な体制構築を進める予定である。

## 地域ポイント事業「たまぼんポイント」

【TM協会: 地域ポイント分科会】

各種地域活動や地域ICTサービスに付加価値を与え、それらの活性化・連携促進に寄与しつつ良好な商業環境の形成を図るために、2018年8月に岩槻地区+美園地区での先行実証開始された地域ポイント事業「たまぼんポイント」の実証的導入・普及・定着に取り組んでいる。

今年度は、従来のカード形式に加え、スマートフォンアプリ「たまぼん」アプリによるサービス提供が9月より導入された。同アプリ内には、座りすぎ防止通知「StandUp」や、まちなか回遊促進の仕組みとして「まちなかクエスト」等がミニアプリとして実装されており、今後も各種サービス連携が可能となっている。

同アプリも含めたポイント事業普及活動を実施する中では、区内各施設で開催さ

れるイベント等へPR出展を行った他、地域イベント・実証実験でのポイント付与も試行された。また、本地区内のベンチャー企業(株式会社しょうがのむし)の製造・販売する6次化商品をポイント抽選・交換メニューに加える等の地域振興連携も進めた。

## スマホ・タブレットアプリ勉強会

【TM協会: サービスエントランス分科会】

年配者を対象としたイベント・セミナー開催を通じて、各種ICTサービスを体験・学習できる機会を充実させ、地域のITリテラシー向上に寄与することを目指している。

昨年度はコロナ禍での開催調整がつかなかったが、今年度は総務省令和2年度補正予算「利用者向けデジタル活用支援推進事業」を活用し、初心者を対象としたスマートフォン講座「初めてのスマホ教室」を9月~2月に計4期開催した。

企画内容自体は好評で、次年度も開催を計画中だが、運営自動化を見据えた地域企画の仕組み化等が課題となっている。

## マルチ・モビリティ・シェアリング実証事業

【TM協会: モビリティサービス分科会】

既存の公共交通網を補完しつつ、天候・行先等に応じて最適な交通モード選択を支援するモビリティ・シェアリングサービス





高架道路下(国道463号バイパス)を活用した駐輪場整備



子育てシェア:お預かり体験 (5月23日@美園コミュニティセンター)



AIオンデマンド交通サービス実証事業 第2期「みそのREDタクシー」  
(2021年12月13日～2022年2月13日@浦和美園駅周辺)



子育てシェア:親子交流ワークショップ (4月24日@浦和美園4丁目公園)

の実証的導入・普及に取り組んでいる。スマホアプリ+車載端末による車両管理システム「HELLO CYCLING」(OpenStreet社)を用いたシェアサイクル事業を2017年3月から開始し、また2019年11月にはスマホアプリ+車載端末によるシェアスクーター事業「HELLO SCOOTER」(同OS社)についても着手している。

利用回数等は着実に増えており、地域生活におけるサービス利用が浸透してきている様子が窺われる中、シェアモビリティと他サービスの連携について検討を進めており、今年度内には、まずはシェアサイクルとオンデマンド交通(後述)の各アプリ相互での情報発信連携が実施された。

なお、埼玉での大規模試合開催時の交通負荷分散に向けたシェアサイクル活用実験が1月27日・2月1日に市・OS社共催で実施されたが、本実験への協力・助言等も実施した。

## 駅周辺自転車駐輪環境の整備

【TM協会:モビリティサービス分科会】

地区内人口増に伴う鉄道末端交通の自転車利用需要への量的対応(コロナ禍を経て質的变化は予見されるが)のため、駅周辺駐輪台数確保が喫緊の課題となっているが、土地所有者の個別意向等の影響を受けにくい駐輪場用地確保のため、駅近傍にて未利用

の高架道路下(国道463号バイパス)の活用調整を進めた。

道路管理者との協議の末、都市利便増進協定(都市再生特措法)の枠組みを活用する事となり、まずは駅東口側の高架道路下のみを対象地とした協定を市・TM法人の間で11月に締結し、また同月、都市利便増進協定として認定を受けた。同協定に基づく駐輪場は3月に開設されたが、駅西口側にもある高架道路下への協定対象地拡張についても検討中であり、さらには、駅～埼玉スタジアム間にも未利用の高架道路下が存在することから、賑わい創出を目的とした活用への拡張もアイデアとしては浮上しているところだ。

## AIオンデマンド交通サービス実証事業

【さいたま市スマートシティ推進コンソーシアム】  
(TM協会・UD協議会 各関係者が参画)

AIシステムを活用したオンデマンド交通サービス実証事業の企画・調整・運営を進めた。本実証を通じて、利用料収入を基礎にしつつも、〈受益〉に応じた〈負担〉を当該サービスに関わるステークホルダー間で相応分担保する事業モデルの構築を目指している。

国土省「スマートシティモデルプロジェクト」を活用し、第1期実証としては昨年度末の3月29日から4月25日に実施され、第2期実証は12月13日から2月13日に実施された。第1期

の検証を踏まえた第2期実証では、乗降場所・時間の改善や電話予約の仕組み導入、定額乗車券の販売、乗車インセンティブとしてのたまぼんポイント付与等の検証とともに、サービス実装時の収支モデル試算を行った。

次年度も引き続き第3期実証の企画化を検討予定だが、今後は、実装時を見据えた事業モデルの検証が重要課題となる。

## 子育てシェア

【TM協会:子育て共助分科会】

多様化する子育て支援ニーズに対応していく上で、子育てに関する地域内共助促進策の1つとして、スマホアプリを介して友人・知人同士で託児・送迎等を相互に頼り合う「子育てシェア」の利用普及に取り組んでいる。

今年度もコロナ禍にて活動継続する上で制約は少なくはなかったが、感染症対策をした上での交流会等開催を通じた周知・普及や、運営自走化に向けたコアリーダー「シェア・コンシェルジュ」の育成等を継続した。

コロナ禍もあって2018年度からの3ヵ年計画通りには安定的な自走運営に足る事業規模に至らなかったが、2022年度の運営自走体制確立に向け、シェア・コンシェルジュの自立運営をサポートするとともに、地域内の支援体制づくりとしてのスポンサー獲得等の試行を進める。



## まちのプロモーション(プロモーションマネジメントに係る主な取組)

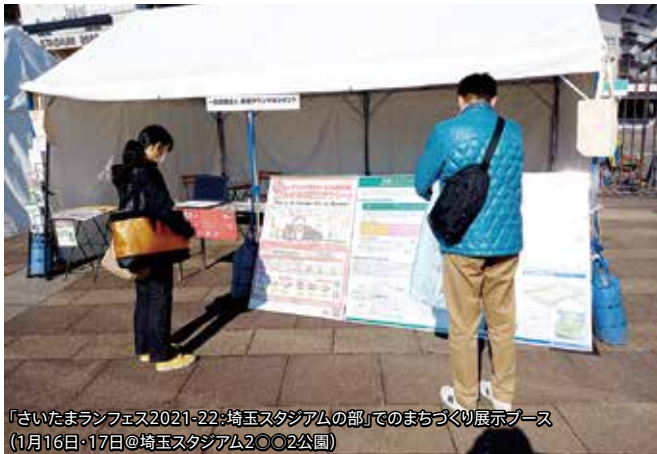


美園地区プロモーション映像「美園スタイル」



※写真提供:埼玉高速鉄道株

美園花火(11月3日@大門上池調節池広場)



「さいたまランフェス2021-22・埼玉スタジアムの部」でのまちづくり展示ブース(11月16日・17日@埼玉スタジアム2002公園)



『美園人』冊子版vol.11の発行

美園地区への定住促進や来街促進に寄与すべく、外部展示会への出展や地域資源を活用したイベント実施等を通じた(まち)の魅力発信に取り組んでいる。また、新市街地特有のまちづくり課題として、地域コミュニティ形成の促進に向けた交流事業等の企画・運営も進めている。

### PR戦略検討

【TM協会:PR戦略作成分科会】

STビジョン素案の修正作業進捗や、地域プロモーションに係る各種取組の進展も踏まえながら、各プロモーション施策等の機能分担に基づく相互連携の促進を図るべく、『(仮称)美園PR戦略』の検討を進めた。地区ブランドイメージ醸成・発信の観点から既存施策のレビューを行い、不足施策や連携策・合理化策等を抽出するとともに、「ロジックモデル」の考え方に基いて地区ブランドイメージ醸成・発信に関する評価指標の設定を行った。

次年度以降、戦略の洗練と並行して各施策への反映を図っていくが、一部施策は先行して着手している。市民講座系プログラムを連携させていく為、共通ロゴ・タイトル「みその暮らしの講座」を設定し、8月より運用を開始した。また、本地区の知名度向上・定住促進等に向けたプロモーション映像「美園スタ

イル」について企画・制作し、3月30日より市公式YouTubeチャンネルや特設Webサイト等での配信を開始している。

### オープンスペース等のイベント利活用

【TM協会:来街促進分科会】

来街促進・賑わい形成方策検討の一環として、駅周辺オープンスペース等における集客イベントの試験開催を通じた空間利活用の可能性等検証を行い、同空間を活用したイベント事業活性化検討に取り組んでいる。

今年度もコロナ禍の影響が甚大で、例年秋に開催される「浦和美園まつり&花火大会」は花火のみの開催となり、また、大門上池調節池広場の集客イベント誘致活動も11月の着手となっている(前述)。大規模な集客イベント等の実施・検証等は、実質的には次年度以降に持ち越しとなる。

一方で、各種オープンスペース活用連携の足掛かりとしては、本地区内で展開の進むキッチンカー出店に関連して、その出店スペース連携に向けた方策検討に着手した。国庫補助事業を活用した実験を企画したものの不採択となり、AIオンデマンド交通サービス実証(前述)内での目的地情報としてキッチンカー出店情報を発信する等、まだ可能な範囲で調整・実施をしている段階だが、こちらも次年度以降も企画化検討を続けて

いく。

### 地域資源発信メディア「美園人」

【TM協会:コミュニケーション促進分科会】

居住者・来街者・通勤通学者・転入者(転入検討者)など、本地区に関わるあらゆる層を対象として、地域のコミュニケーション促進や地域ブランドイメージ形成等を目標に、地域資源の発掘・発信を通じて、地域への愛着、人と人のつながりを育てていく地域メディア『美園人』を2017年春より運営している。地域の〈活動〉や〈人〉に焦点を当てたWeb記事発信を随時行いながら、主要記事をまとめた冊子版の制作・発行を実施している。

今年度は、地域メディアとしての価値定着を図っていくために、各種地域活動の機を捉えた情報発信としてWeb・SNS運営に注力しつつ、冊子版vol.11を3月に発行した。

運営自走化に向けては、過年度に設定した協賛メニューに基づく営業活動はコロナ禍において進展がなかったが、メディア運営を支援する地域サポーター「美園人サポーター」の増加を図るべく、みそのいち(10月24日)で募集PRブース出展等を実施した。まだ、実稼働レベルのサポーター数は増えてはいないが、引き続き募集・育成活動を継続していく。





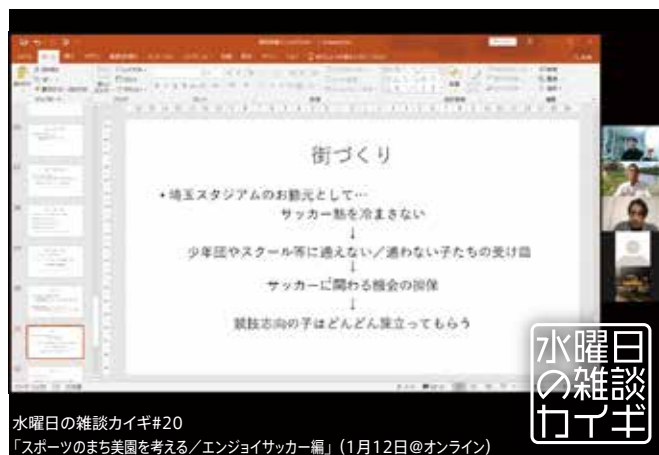
みそのいち (12月24日@浦和美園駅改札前)



綾瀬川クリーンウォークin美園2022春 (3月5日@綾瀬川遊歩道周辺・大門上池調節池広場)



みそのいち (10月24日@美園コミュニティセンター交流広場)



水曜日の雑談カイギ#20  
「スポーツのまち美園を考える/エンジョイサッカー編」(1月12日@オンライン)

## 産直イベント「みそのいち」

【TM協会:コミュニケーション促進分科会】

周辺農地資源の保全・活用に向けた〈農コミュニティ〉の形成にも寄与しながら、地域の交流促進や賑わい形成促進を図っていくため、旬の地元産農産物やそれを用いた調理品・加工品等の対面販売を中心としたマルシェイベント「みそのいち」の企画・運営を、2016年度より推進している。

コロナ禍において2020年2月以降は開催休止していたが、今年度より感染症対策をした上での小規模試験開催を再開している。各回の出店者数について、まだコロナ禍前の規模には戻ってはいないが、まずは定例開催の継続を念頭に取組を進めている。

また、コロナ禍における出店者数減＝事業規模縮小も踏まえつつ、コロナ禍前・後の運営収支検証や、出店可能な地区内の他イベント等との比較分析等を行い、今後に向けた運営改善策の検討も進めている。次年度以降、実運営内容への反映を行っていく予定だ。

## UDCMiサポーターズ

【TM協会:コミュニケーション促進分科会】

各種地縁活動等の行き届いていないまちづくり課題領域をカバーするプロジェクト等

を活性化させていく為、登録制の地域サポーター制度の枠組みを企画し、「UDCMiサポーターズ」としての登録受付を2019年度に開始した。

今年度もコロナ禍における制約等もある中で、新規のサポーターズ企画を始動するには至らず、既存活動を継続するに留まった。

しかしながら、「綾瀬川サポーターズ」の取組の中では、感染症対策を踏まえた参加型イベント(綾瀬川クリーンウォークin美園)を試行する中で、参加インセンティブの検証として、7月には参加特典として地区内店舗等のクーポン券の配布を、3月には地域ポイント「たまぼん」アプリを活用した参加特典ポイントの付与を試験実施している。参加人数も限られ、活動参加の動機づけとしての効果はまだ不明瞭だが、各種地域活動においては人的リソースの大半を無償ボランティアに依存するケースも多く、活動基盤の脆弱性を少しでも解消するためにも、参加インセンティブ設定検証も引き続き実施していく。

## UDCMiまちづくり茶話会

【TM協会:コミュニケーション促進分科会】

2016年度に地域交流会「UDCMiまちづくり茶話会」を立ち上げ、まちづくりプロジェクト等に関わる意見収集や、各種事業・活動等へ主体的に参画・連携する人材・団体等の

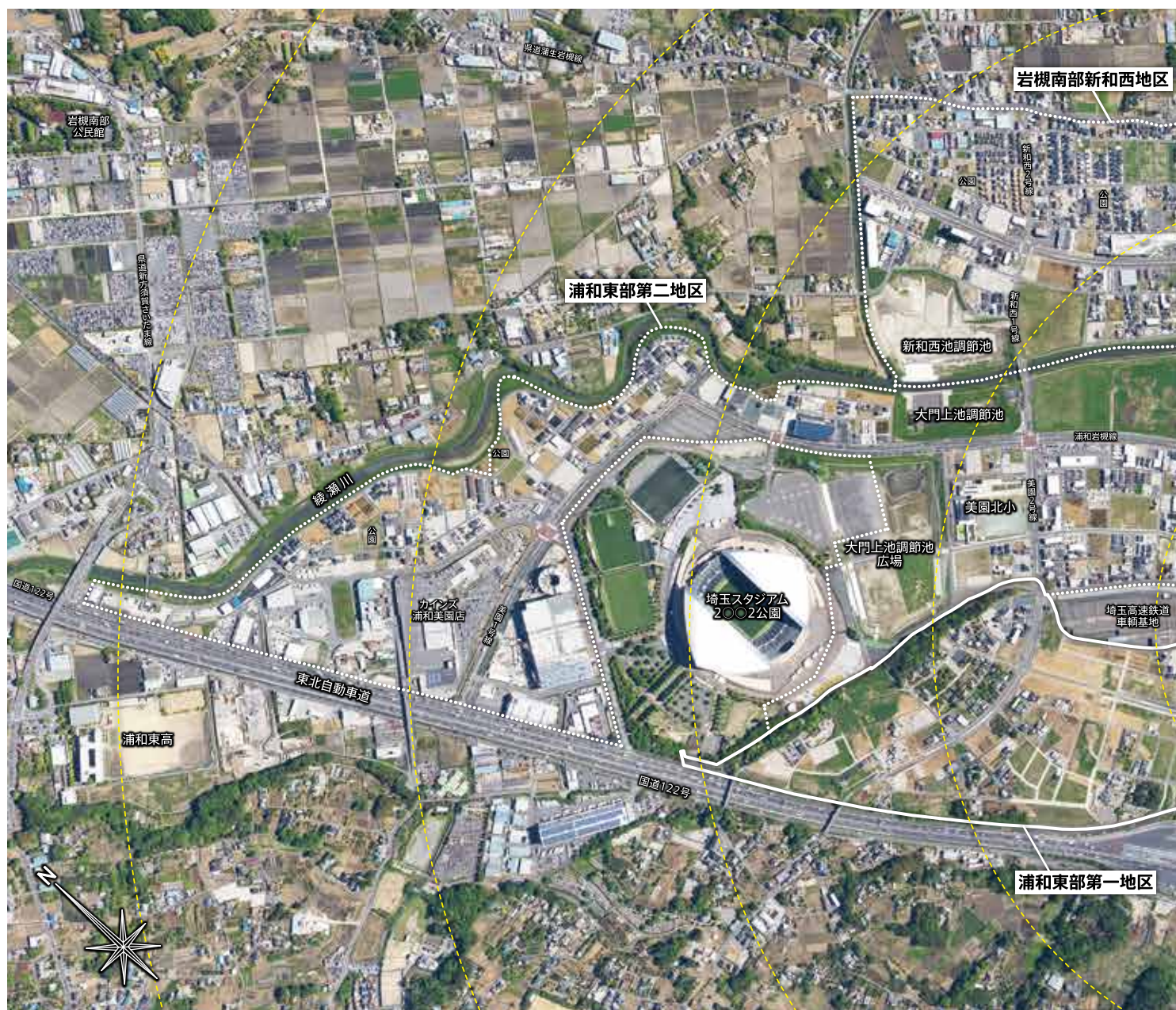
発掘を目的に不定期開催を行ってきたが、2019年度に月1定期開催シリーズ「水曜日の雑談カイギ」を企画し、その開催を継続してきている。

今年度は、コロナ禍における感染拡大リスクを避け、「雑談カイギ」をオンラインにて開催継続を行っている。TM協会・UD協議会をはじめ、各種地域団体・組織の取り組む事業・活動等に関する情報収集・周知普及・事後検証等の場として運営してきたが、こうしたケースに加えて今年度は特に、「雑談カイギ」にて取り扱う議題について地域住民から提案を受け実際に議題に取り上げるケースも出てきており、開催継続による〈定着〉が少しずつ進んできていることが窺われる。

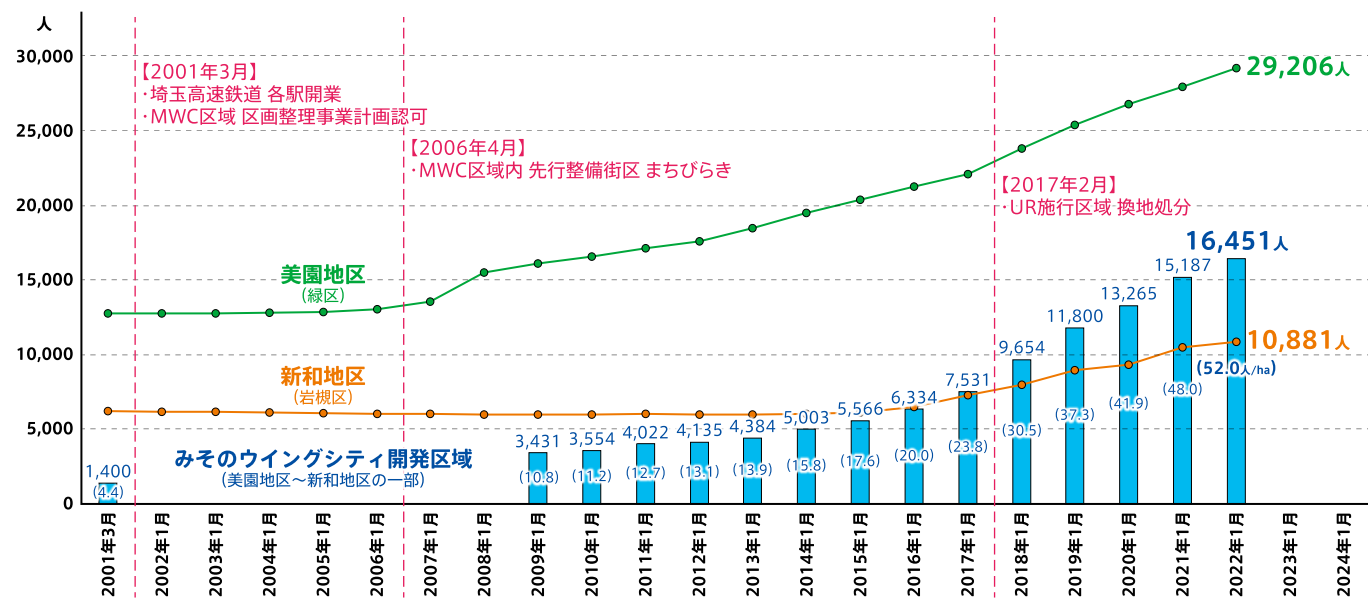
来年度以降も引き続き「雑談カイギ」の開催を続ける予定だが、感染症流行状況等を見据えながら適時対面開催の再開を検討するとともに、まちの動向や各種プロジェクト進捗状況等に応じたタイムリーなテーマ設定を行っていく。



# 浦和美園駅周辺の土地利用概況および人口動態



## みそのウイングシティ開発区域周辺の人口推移



※さいたま市「人口・世帯」データおよびさいたま市浦和東部まちづくり事務所作成人口データを基に一社TM作図





(撮影：2021年4月)

## みそのウイングシティ開発区域

### 浦和東部第一特定土地地区画整理事業

施行者 さいたま市  
 施行面積 55.88ha  
 都市計画決定 1999年6月4日  
 事業計画認可 2001年3月27日  
 事業計画変更 2021年3月16日(第5回変更)  
 施行期間 2000年度～2034年度(予定)  
 平均減歩率 34.21%

### 浦和東部第二特定土地地区画整理事業

施行者 UR都市機構  
 施行面積 183.21ha  
 都市計画決定 1999年6月4日  
 事業計画認可 2001年3月5日  
 事業計画変更 2015年8月14日(第4回変更)  
 換地処分公告 2017年2月17日  
 平均減歩率 39.0%

### 岩槻南部新和西特定土地地区画整理事業

施行者 UR都市機構  
 施行面積 73.84ha  
 都市計画決定 1999年6月4日  
 事業計画認可 2001年3月5日  
 事業計画変更 2015年8月14日(第4回変更)  
 換地処分公告 2017年2月17日  
 平均減歩率 39.5%

### 大門下野田特定土地地区画整理事業

施行者 さいたま市  
 施行面積 3.60ha  
 都市計画決定 1999年6月4日  
 事業計画認可 2014年3月3日  
 事業計画変更 2021年3月16日(第2回変更)  
 施行期間 2013年度～2035年度(予定)  
 平均減歩率 35.07%

## その他の区画整理施行中区域

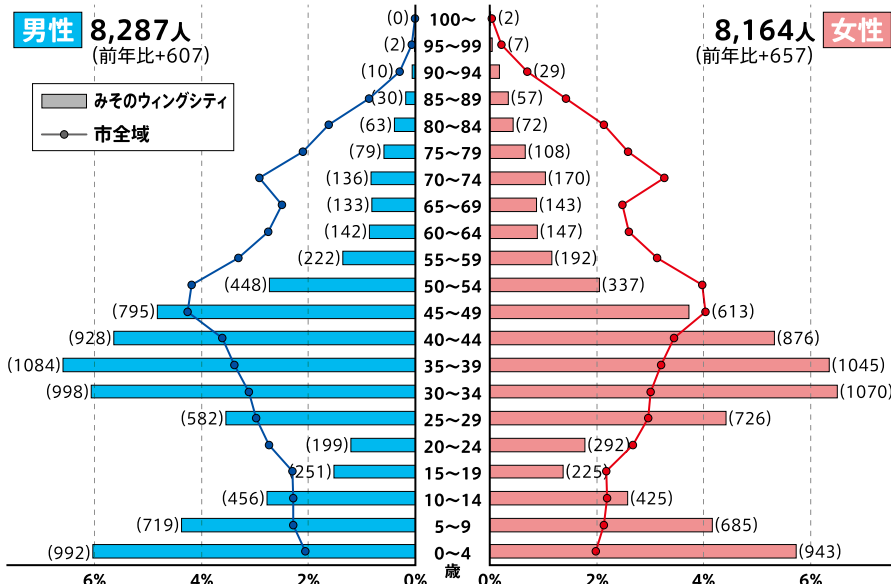
### 大門上・下野田特定土地地区画整理事業

施行者 大門上・下野田特定土地地区画整理組合  
 施行面積 36.30ha  
 都市計画決定 1970年8月18日  
 事業計画認可 1995年3月3日  
 事業計画変更 2021年3月30日(第7回変更)  
 施行期間 1994年度～2025年度(予定)  
 平均減歩率 27.44%

### 大門第二特定土地地区画整理事業

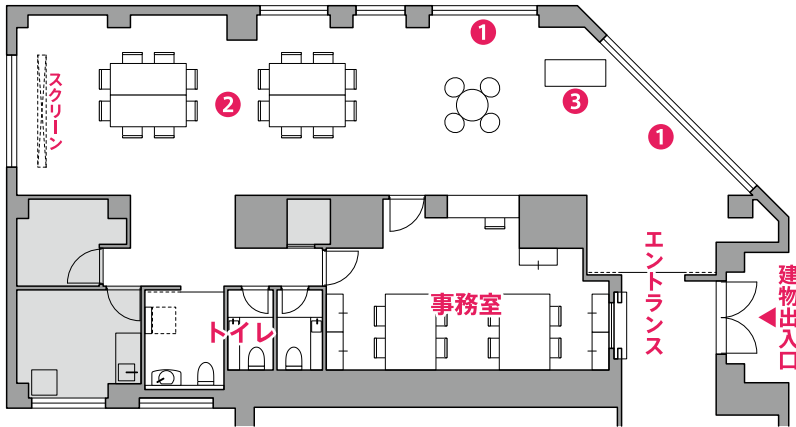
施行者 大門第二特定土地地区画整理組合  
 施行面積 76.27ha  
 都市計画決定 1970年8月18日  
 事業計画認可 1992年5月8日  
 事業計画変更 2016年3月31日(第6回変更)  
 施行期間 1992年度～2030年度(予定)  
 平均減歩率 27.55%

## みそのウイングシティ開発区域内の人口構成 (2022年1月時点)



※さいたま市「人口・世帯」データおよびさいたま市浦和東部まちづくり事務所作成人口データを基に一社TM作図

# UDCMi施設の運営



## 施設の概要

「アーバンデザインセンターみその：UDCMi」の施設は、美園地区における各種まちづくり事業・活動の活性化や相互連携の促進、そして各種取り組みへの地域住民・立地企業等の参画促進を目的に、2015年10月17日に浦和美園駅西口駅前に開設された。TM協会（地域プロモーション部会：UDCMi管理運営分科会）の監理のもと、施設の管理・運営実務は一社TMが担っている。

## 所在地・開館時間等

〒336-0962  
さいたま市緑区下野田494-1 オークリーフ1F  
Phone. 048-812-0301  
Fax. 048-812-0305  
E-mail: info@misono-tm.org  
開館時間 火曜～金曜 10:00～19:00  
土曜・祝日 9:00～16:00  
休館日 日曜・月曜・年末年始

## ①まちづくり情報展示

パネル展示やエリア航空写真をはじめ、美園地区のまちづくり情報展示を施設内各所に設けている。また、地域イベント等のパンフレット・チラシ類も配置し、まちの将来像や各種まちづくり事業・活動の情報発信を行っている。

## ②ワークショップスペース

まちづくりに係る会議やワークショップ、イベント等、多様な活動を行えるフリースペースを設けている。事前登録・予約制による地域団体・市民サークル等の貸切利用のほか、利用予定の無い空き時間帯には、コワーキングスペースとしての個人貸出も2020年度より実施している。

## ③まちづくり相談窓口

各種実証実験や地域サービスの参加登録の受付業務を行うほか、まちづくりに関する地域の課題解決や活性化の取り組み等に関する支援相談も受け付けている。



UDCMi公式Webサイト  
<https://www.misono-tm.org/udcmi/>



UDCMiメールニュース登録ページ  
<https://www.misono-tm.org/udcmi/mag/>



UDCMi公式Facebookページ  
<https://www.facebook.com/UDCMi.info/>

## UDCMi年間報告2021 (April.2021 - March.2022)

発行 2022年3月  
編集 一般社団法人美園タウンマネジメント  
協力 美園タウンマネジメント協会  
みその都市デザイン協議会